厚生労働行政推進調査事業費補助金

がん対策推進総合研究事業

小児・AYA 世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法のエビデンス確立を目指した研究
―安全性と有効性の創出を目指して

（24EA2001）

令和 6 年度～令和 7 年度　総合研究報告書

研究代表者　鈴木　直

令和 8（2026）年 5 月

目　　次

Ⅰ．総合研究報告書

小児・AYA 世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法のエビデンス確立を目指した研究
―安全性と有効性の創出を目指して

鈴木　直　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

資料

① 研究班参加施設　・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

Ⅱ．研究成果の刊行に関する一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・　19

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
総合研究報告書

小児・AYA 世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法の エビデンス確立を目指した研究―安全性と有効性の創出を目指して

鈴木　直　　聖マリアンナ医科大学　主任教授

要旨
本邦では、がん・生殖医療領域に特化した唯一の学術団体である日本がん・生殖医療研究会（現・一般社団法人日本がん・生殖医療学会）が 2012 年に設立され、2014 年以降厚生労働省科学研究費研究班と共同で、(1) 全国のがん・生殖医療ネットワークの構築、(2) がん・生殖医療に関わる人材育成（認定がん・生殖医療ナビゲーター制度やがん・生殖医療専門心理士認定制度の構築等）を通じて、本領域の均てん化が進んできた。さらに、日本がん・生殖医療学会は厚生労働科学研究費補助金による研究班の協力を得て、日本がん・生殖医療登録システム（JOFR: Japan Oncofertility Registry）を 2018 年に構築した。JOFR の構築によって、がん・生殖医療の二つのアウトカム（がん側と生殖側）を検証することが可能となり、最終的には患者の命を守り（安全性）かつ技術革新（有効性）を図ることができる。
一方、日本癌治療学会が本領域の診療ガイドラインを 2017 年に刊行して以来（2024 年 12 月に改訂版発刊)、がん治療と妊孕性温存療法に要する費用が経済的な負担となる患者に対する妊孕性温存療法への国と地方自治体による経済的支援が進み、2021 年 4 月から公的な研究促進事業としての経済的支援（小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業）が開始された。そして、2022 年 4 月からは新たに、温存後生殖補助医療に対する経済的支援が追加された。
がん・生殖医療は、対象が「がん患者」であることから、何よりもがん医療側のアウトカムとして、再発や生存の有無の把握が重要である。さらに、生殖医療側のアウトカムとして、妊娠・分娩に関する妊孕性温存に係るエビデンスの集積が必須となる。不妊症患者に対する、生殖医療との大きな違いは、対象患者が「がん患者」である事から、原則としてがん医療が優先されること、また原疾患に対する長期の経過観察に伴って妊孕性温存検体が長期に保管され、検体が利用される時期が不確実であることである。現在、不妊症患者に対する生殖医療における胚（受精卵）、未受精卵子、精子凍結のエビデンスは確立されているが、本邦よりも 10 年ほど早くがん・生殖医療が導入された欧米においても、凍結保存から利用まで 10 年ほどの時間がかかる本領域のエビデンスが最近集積されつつある現状である。本研究班が、本研究促進事業を全国に展開することで、本邦における小児・AYA 世代がん患者等に対する妊孕性温存療法に係る臨床データ等を収集並びに解析が可能となる。本研究の成果が、本邦におけるがん・生殖医療における安全性（がん医療側のアウトカム）と有効性（生殖医療側のアウトカム）のエビデンスを創出することができる。
そこで、本研究班では以下の課題に関する研究を実行した；研究① 国の小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業の円滑な牽引と国民への周知、研究② 日本産科婦人科学会、日本泌尿器科学会及び日本がん・生殖医療学会と連携して、本事業に参加する各々の学会が認定する

認定施設（学会認定施設）の本事業協力施設認定、研究③ 日本がん・生殖医療学会が進める国の委託事業（JOFR、FS リンク等）に関連する研究。

研究の結果、日本産科婦人科学会、日本泌尿器科学会、そして日本がん・生殖医療学会と協力しつつ、本研究班が本研究促進事業を牽引することで、本邦における小児・AYA 世代がん患者等に対する妊孕性温存療法に係る研究促進事業により収集した臨床データ等を解析し、本邦におけるがん・生殖医療における安全性（がん医療側のアウトカム）と有効性（生殖医療側のアウトカム）に繋がるエビデンスの集積に向けた体制を構築することができた。さらに、新たに追加支援となった、温存後生殖補助医療に関する情報発信を行うこともできた。又、JOFR のデータを用いた研究の結果、2023 年は年間 1,311 人（男性 641 人、女性 670 人）に達しており、妊孕性温存療法を実施した患者数が年々増加していることが明らかとなった。なお、男女それぞれでの最多年齢層は 25-29 歳と 35-39 歳、最も多い原疾患は造血器悪性腫瘍と乳がんだった。男性では主に射出精子による精子凍結が実施され、女性では卵子凍結、胚凍結、卵巣組織凍結の順で実施されていた。また、43 歳以上の男性登録症例 428 人のうち、検体凍結例は 360 人（精子凍結 354 人、TESE 6 人）であり、妊孕性温存療法実施時の年齢は中央値 47 歳（範囲 43-87 歳）であった。挙児を得た男性は 35 人（精子凍結 34 人、TESE 1 人）であり、そのうち 21 人(検体凍結例の 6%に相当)は凍結検体を用いた不妊治療（全例生殖補助医療）により、残りの 14 人は凍結検体を用いず挙児を得ていた。凍結検体を使用した 41 人（精子凍結 40 人、TESE 1 人）の初回使用時の年齢は中央値 47 歳（43-58 歳）であり、そのうち 2 人は人工授精に、39 人は生殖補助医療に使用していた。検体利用率は 11%であった。一方、助成金の現状を調査した結果、本邦の小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法に係る費用の約 3 分の 2 が公的助成により賄われ、残りの約 3 分の 1 が患者の自己負担であることが明らかになった。そして、本試算に基づき、妊孕性温存療法に対する公的助成制度を維持するための費用は年間約 44 億円となると推定された。小児・AYA 世代のがん患者に対する本研究促進事業の支援体制をさらに整備することは、若年がんサバイバーの QOL 向上に不可欠であることから、本研究の試算結果に基づき公的助成の拡充と継続的支援を推進することで、経済的理由により妊孕性温存を断念することのない社会の実現が期待される。なお、がん対策推進を志向した政策提言を以下に記す。

政策提言；

（1） がん診療拠点病院等において、がん治療医から治療による妊孕性に与える影響や妊孕性温存療法に関して、的確なタイミングで確実な情報を患者に提供できる体制の構築を引き続き強く要望する

（2） 小児がん診療拠点病院等において、がん治療医から治療による妊孕性に与える影響や妊孕性温存療法に関して、的確なタイミングで確実な情報を医療従事者と共に患者に提供できる体制の構築を引き続き強く要望する

（3） がん・生殖医療の地域格差解消の施策として、すでに 47 都道府県にはがん・生殖医療ネットワークが存在することから、各ネットワークの窓口となる自治体のさらなる協力を引き続き強く要望する。特に、小児・思春期がん患者に対しては、ブロック毎のがん・生殖医療連携の検討が急務である

（4） 妊孕性温存療法のアクセスや質の向上にむけて、JOFR データを用いたさらなるエビデンス

構築や公的助成の適応範囲（疾患、治療、年齢など）の検証が必須である

（5） 妊孕性温存療法に係る患者負担額は生殖医療施設によって異なるが、妊孕性温存療法を必要とする患者の医療へのアクセスを確保するためには、費用の均等化、助成の継続ならびに保険適用の導入（受精胚凍結ならびに精子凍結）が望まれる

（6） 43 歳以上の凍結融解胚移植妊娠は、周産期転帰の視点では自然妊娠群と比べリスクは高くない可能性が示唆された。周産期医療の逼迫に繋がらないよう十分に考慮した上で、本研究促進事業の年齢上限の再考が望まれる。一方、男性における公的助成の対象年齢の拡大については、現状の 43 歳未満の実態と比較しつつ今後慎重に検討する必要がある。

研究分担者
森重　健一郎（地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター）
髙井　泰（埼玉医科大学）
古井　辰郎（東海国立大学機構岐阜大学）
小野　政徳（東京医科大学）
渡邊　知映（昭和医科大学）
湯村　寧（横浜市立大学）
清水　千佳子（国立研究開発法人国立国際医療研究センター）
片岡　伸介（東海国立大学機構名古屋大学）
宮地　充（京都府立医科大学）
末永　潤（横浜市立大学）
中山　タラント　ロバート（慶應義塾大学）
藤井　伸治（岡山大学）
堀江　昭史（公益財団法人田附興風会医学研究所）
原田　美由紀（東京大学）
寺下　友佳代（北海道大学）
安岡　稔晃（愛媛大学医学部附属病院）
桂木　真司（宮崎大学）
銘苅　桂子（琉球大学病院）
前田　尚子（名古屋医療センター）
浦田　陽子（国立成育医療研究センター）
河井　孝夫（東京大学医学部附属病院）
岩端　威之（獨協医科大学）
蘆澤　正弘（自治医科大学）
伊澤　直樹（聖マリアンナ医科大学）
秋定　直樹（国立がん研究センター東病院）

Ａ．研究目的

本邦のがん・生殖医療における安全性（がん医療側のアウトカム）と有効性（生殖医療側のアウトカム）に繋がるエビデンスの集積 、適切な長期検体保存体制の検証ならびに構築 、がん・生殖医療に関わる全国の医療機関の医療の質向上を目的とする。なお、研究③に関する目的をさらに個別に以下に記す。

研究③-1 JOFR データを用いた臨床研究：JOFR 登録データと ART 登録データを連結し、生児獲得を含む妊孕性温存療法および温存後生殖補助医療の実態を明らかにすることで、これらの医療の有効性・安全性に関する包括的なエビデンスを継続的に創出することを目的とする。研究③-2 妊孕性温存に係る治療費並びに温存後生殖補助医療等に係る治療費等の調査研究：最新の全国登録データおよび実臨床データに基づき、妊孕性温存療法ならびに温存後生殖補助医療に対する年間公的助成額の精緻な再試算を行うとともに、患者負担の実態および施設間格差を明らかにし、今後の制度設計に資するエビデンスを構築することを目的とした。

Ｂ．研究方法

研究① 国の小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業の円滑な牽引と国民への周知：1）研究班の website の「妊孕性温存実施施設（研究協力施設）を探す」（http://outcome2021.org/）のページの更新業務を実施する。2）研究班参加施設の認定事業を実施する。

研究② 日本産科婦人科学会又日本泌尿器科学会、日本がん・生殖医療学会と連携して、本事業に参加する各々の学会が認定する認定施設（学会認定施設）の本事業協力施設認定：1）日本産科婦人科学会臨床倫理監理委員会のがん・生殖医療施設認定小委員会（https://www.jsog.or.jp/modules/committee/index.php?content_id=186）2）日本泌尿器科学会（https://www.urol.or.jp/society/cryopreservation/）、3）日本がん・生殖医療学会 JOFR 管理運営委員会（http://www.j-sfp.org/about/registry.html）と連携し、本研究促進事業に参加する施設情報を共有する。そして、適宜「妊孕性温存実施施設（研究協力施設）を探す」（http://outcome2021.org/）のページの更新を行う。

研究③ 日本がん・生殖医療学会が進める国の委託事業（JOFR、FS リンク等）に関連する研究；

研究③-1 JOFR データを用いた臨床研究：日本がん・生殖医療学会が運用する日本がん・生殖医療登録システム（JOFR）に登録されたデータを用い、がん生殖医療の実態と現在の課題を把握し今後の最適化を考えるために記述研究を行った。また、43 歳以上の男性の妊孕性温存療法の実態についても記述研究を行い、男性の妊孕性温存療法の公的助成年齢の拡大の是非についても検討を行った。具体的には、研究③-1-1：2024 年 5 月までに登録された妊孕性温存療法の登録データ全症例を抽出し、2023 年 12 月までに初診となった症例に絞り解析を行った。研究③-1-2：2024 年 5 月までに登録された 43 歳以上の男性の妊孕性温存療法の登録データ解析を行った。

研究③-2 妊孕性温存に係る治療費並びに温存後生殖補助医療等に係る治療費等の調査研究：我が国における小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存療法および温存後生殖補助医療(温存後 ART)に要する費用を基に、公的助成制度導入時の想定助成総額を推計することを目的として、以下の手順で実施した。

1. データ収集：妊孕性温存療法および温存後 ART の各手技における実績件数および想定件数を、以下の公的・学術的情報源に基づき収集した。

・JOFR：2022 年登録症例数に基づき、妊孕性温存療法の年間実績を集計。

・過去の文献報告および助成制度資料:Pink Ring・聖路加国際大学による実態調査報告（2017）、厚生労働省のがん対策事業関連資料。

2. 妊孕性温存療法および温存後 ART の試算件数の算出：JOFR 登録データ(2022 年)をもとに、以下の治療法ごとに年間助成回数を算出した。

・胚凍結、未受精卵子凍結、卵巣組織凍結、卵巣組織移植、精子凍結、TESE（精巣内精子採取術）

温存後の生殖補助医療については、凍結保存された胚、卵子、卵巣組織、精子のそれぞれにおいて、1 人あたり 6 回の温存後 ART 実施を前提とした推定を行った。

3. 単価の設定と費用算出:厚生労働省が実施している現行の公的助成制度の金額設定をもとに、以下のように 1 件あたりの助成額を設定した。

・胚凍結：35 万円／回、未受精卵子凍結：20 万円／回、卵巣組織凍結・移植：40 万円／回、精子凍結：2.5 万円／回、TESE：35 万円／回

温存後 ART においても、同等の助成金額で設定し、治療回数との積算により助成金額を算出した。

4. 若年子宮体癌患者への助成拡張試算：これまで助成対象外であった若年子宮体癌患者を新たに想定対象として加え、将来的な助成拡大を見込んだ上での追加試算を行った。

5. 合計費用および制度設計への反映：全体の助成対象治療数と単価を掛け合わせることで、年間の公的助成総額を試算した。

6. 妊孕性温存ならびに温存後 ART に要する患者支払い額に関する全国調査：日本産科婦人科学会あるいは日本泌尿器学会の妊孕性温存療法実施医療機関認定医療機関を対象とした患者支払い額に関する全国調査を行った。

（倫理面への配慮）
研究③-1 の「患者の登録」は、各施設の倫理委員会での承認又は東北大学の倫理委員会による一括審査を受けて承認された（倫理審査番号：UMIN000045292)。
研究③-2 は東京医科大学医学倫理審査委員会の承認（承認番号 T2023-0129）を得て実施した。

Ｃ．研究結果
研究① 国の小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業の円滑な牽引と国民への周知：1）研究班の website の「妊孕性温存実施施設（研究協力施設）を探す」（http://outcome2021.org/）のページの更新業務を行った。2）研究班参加施設の認定事業を実施した。本年度は、6 施設を新たに研究班参加施設として認定し、参加施設は計 207 施設となった（資料①)。なお、日本産科婦人科学会、日本泌尿器科学会並びに日本がん・生殖医療学会と、本研究班の協力施設に関する情報を共有した。

研究② 日本産科婦人科学会、日本泌尿器科学会及び日本がん・生殖医療学会と連携して、本事業に参加する各々の学会が認定する認定施設（学会認定施設）の本事業協力施設認定：1）日本産科婦人科学会臨床倫理監理委員会のがん・生殖医療施設認定小委員会、2）日本泌尿器科学会、3）日本がん・生殖医療学会 JOFR 管理運営委員会と連携し、本研究促進事業に参加する施設情報を共有した。又､｢妊孕性温存実施施設(研究協力施設)を探す」（http://outcome2021.org/）のページの更新を行った。

研究③-1 JOFR データを用いた臨床研究：
研究③-1-1：2023 年までに初診となった症例は 11,510 人で、実際に妊孕性温存療法を実施した症例は 9,491 人であった。妊孕性温存療法を実施した患者数は年々増加し､2023 年は年間 1,311 人(男性 641 人、女性 670 人）に達していた。男女それぞれでの最多年齢層は 25-29 歳と 35-39 歳、既婚率は 27％と 41％、最も多い原疾患は造血器悪性腫瘍と乳がんだった。男性では主に射出精子による精子凍結が実施され､女性では卵子凍結､胚凍結、卵巣組織凍結の順で実施されていた。凍結保存された検体数の中央値は、卵子が 9 個、胚が 5 個、精子が 6 本であった。原疾患診断から妊孕性温存療法実施までの期間の中央値は 46 日(男性 27 日、女性 68 日）であった。採卵を要した場合の合併症として、卵巣過剰刺激症候群 5%、採取時の出血 0.05％、肺塞栓症 0.02％が報告された。凍結保存検体の利用率は 9.6％（男性 8.6%、女性 10.6%)、廃棄率は 9.9％(男性 16.3%､女性 3.7%)であった。妊孕性温存療法後、455 人の女性および 305 人の男性のパートナーが妊娠し、そのうち 264 人の女性および 176 人の男性のパートナーが凍結検体を使用した生殖補助医療での妊娠であった。
研究③-1-2:登録症例は 428 人(精子凍結 420 人、TESE 8 人）であった。妊孕性温存療法実施時の年齢は中央値 47 歳（範囲 43-87 歳)、47%が既婚、42％に挙児希望があった。検体凍結例は 360 人(精子凍結 354 人、TESE 6 人）であった。挙児を得た男性は 35 人(精子凍結 34 人､TESE 1 人)であり、そのうち 21 人(検体凍結例の 6%に相当)は凍結検体を用いた不妊治療(全例生殖補助医療)により、残りの 14 人は凍結検体を用いず挙児を得ていた。凍結検体を使用した 41 人（精子凍結 40 人、TESE 1 人）の初回使用時の年齢は中央値 47 歳（43-58 歳）であり、そのうち 2 人は人工授精に、39 人は生殖補助医療に使用していた。検体利用率は 11%であった。凍結検体を廃棄した 68 人(精子凍結 66 人、TESE 2 人）の廃棄時年齢は中央値 50 歳(43-69 歳)であり､廃棄理由は､本人希望(詳細不明)(32%)、凍結延長更新なし(24%)、死亡(22%)、挙児が得られた(7%)、挙児希望がなくなった(6%)であった。検体廃棄率は 19%であった。
研究③-2 妊孕性温存に係る治療費並びに温存後生

殖補助医療等に係る治療費等の調査研究：妊孕性温存療法は、患者の状況やがんの種類に応じてさまざまな方法が選択された。代表的な治療方法として、胚（受精卵）凍結、未受精卵子凍結、卵巣組織凍結、精子凍結、精巣内精子採取術があった。各治療法の概要と費用は以下の通りであった。

・胚（受精卵）凍結：治療開始前に採卵し、卵子と精子を受精させて胚を凍結保存する方法。1 回あたりの助成額は 35 万円であり、最大 2 回まで助成対象となっている。

・未受精卵子凍結：採卵して未受精の卵子を凍結保存する方法であり、将来必要に応じて精子と受精させる。助成額は 1 回あたり 20 万円で、最大 2 回まで助成対象となっている。

・卵巣組織凍結及び卵巣組織再移植：卵巣の一部を摘出し、凍結保存する。卵巣組織を再移植することで妊孕性の回復を図るもので、助成額は 1 回あたり 40 万円で、卵巣組織凍結及び卵巣組織再移植は、それぞれ 1 回まで助成対象となっている。

・精子凍結：男性患者に適用される方法で、採取した精子を凍結保存する。助成額は 1 回あたり 2 万 5 千円で、最大 2 回まで助成対象となっている。

・精巣内精子採取術(TESE)：精巣内の精子を直接採取し凍結保存する方法であり、無精子症患者に対応する治療法。助成額は 35 万円で、最大 2 回まで助成対象となっている。

公的助成の試算

試算結果

2022 年 JOFR 登録症例数

妊孕性温存療法（実績）

胚（受精卵）凍結 338 例 x 2 = 676 回

未受精卵子凍結 439 例 x 2 = 878 回

卵巣組織凍結 63 例 x 1 = 63 回

卵巣組織移植 1 例 x 1 = 1 回

精子凍結 730 例 x 2 = 1,460 回

精巣内精子採取術による精子凍結 14 例 x 1 = 14 回

上記妊孕性温存療法後の生殖補助医療（将来試算）

凍結した胚（受精卵）を用いた生殖補助医療 338 x 6 = 2,028 回

凍結した未受精卵子を用いた生殖補助医療 439 x 6 = 2,634 回

凍結した卵巣組織再移植後の生殖補助医療 63 x 6 = 378 回

凍結した精子を用いた生殖補助医療 730 x 6 = 4,380 回

上記に加えて、これまで助成対象となっていなかった若年子宮体癌患者の妊孕性温存療法ならびに妊孕性温存療法後の生殖補助医療を助成対象に加えた。

・若年子宮体癌罹患数ならびに助成対象の試算

※妊孕性温存療法

胚(受精卵)凍結 1,528 回 35 万円/回 5 億 3,480 万円

未受精卵子凍結 2,012 回 20 万円/回 4 億 240 万円

卵巣組織凍結 63 回 40 万円/回 2,520 万円

卵巣組織移植 1 回 40 万円

精子凍結 1,460 回 2 万 5 千円/回 3,650 万円

精巣内精子採取術 14 回 35 万円/回 490 万円

※温存後生殖補助医療

妊孕性温存療法後生殖補助医療（合計額試算）

凍結した胚（受精卵）を用いた生殖補助医療 (338+426) x 6 = 4,584 回 4 億 5,840 万円

凍結した未受精卵子を用いた生殖補助医療 (439+567) x 6 = 6,036 回 15 億 900 万円

凍結した卵巣組織再移植後の生殖補助医療 63 x 6 = 378 回 1 億 1,340 万円

凍結した精子を用いた生殖補助医療 730 x 6 = 4,380 回 13 億 1400 万円

以上より、

妊孕性温存療法（合計額） 10 億 420 万円

妊孕性温存療法後生殖補助医療（合計額） 33 億 9480 万円

総合計額（試算）43 億 9,900 万円/年

D．考察

研究③-1 JOFR データを用いた臨床研究：

研究③-1-1：①地域差の是正、②妊孕性温存療法実施までの期間短縮、③妊孕性温存療法合併症の軽減を今後の課題に挙げた。今後、妊孕性温存療法のアクセスや質の向上にむけて、JOFR データを用いたさらなるエビデンス構築や公的助成の適応範囲（疾患、治療、年齢など）の検証が必要となる。

研究③-1-2：43 歳以上の男性については、検体利用率や凍結検体を使用し挙児を得た人数の割合を年齢別に検討する必要があるが、人数が少ないため正確な検討は困難である。今後、男性における公的助成の対象年齢の拡大については、現状の 43 歳未満の実態と比較しつつ今後慎重に検討する必要がある。

研究③-2 妊孕性温存に係る治療費並びに温存後生殖補助医療等に係る治療費等の調査研究：・経済的負担について:小児・AYA 世代がん患者にとって、妊孕性温存療法および温存後 ART にかかる費用が高額であるため、多くの患者が経済的理由による妊孕性温存を断念してきた。公的助成制度導入により妊孕性温存療法および温存後 ART の普及が進んできた。

・心理的負担について：がん治療開始前に妊孕性について考慮することは、原疾患の治療についての検討事項が多く、患者および家族にとって多大な負担である。医療従事者によるサポートが十分でない場合患者は正しい情報を得られず最適な選択が難しくなる。公的助成制度導入により、医療従事者による妊孕性温存療法の情報提供が容易となり、共有意思決定支援の普及が進んだ。

・治療費等の今後の動向について：本試算に基づき、妊孕性温存療法に対する公的助成制度を維持するための費用は年間約 44 億円となっていくと考えられる。厚生労働省および地方自治体による財政的支援が確保されれば、小児・AYA 世代がん患者の経済的負担を軽減し、治療を受けられる環境が整備されることが期待される。

E．結論

日本産科婦人科学会、日本泌尿器科学会、そして日本がん・生殖医療学会と協力しつつ、本研究班が本研究促進事業を牽引することで、本邦における小児・AYA 世代がん患者等に対する妊孕性温存療法に係る研究促進事業により収集した臨床データ等を解析し、本邦におけるがん・生殖医療における安全性（がん医療側のアウトカム）と有効性（生殖医療側のアウトカム）に繋がるエビデンスの集積に向けた体制を構築することができた。さらに、新たに追加支援となった、温存後生殖補助医療に関する情報発信を行うこともできた。引き続き、厚生労働省、全国の自治体、関連学術団体と密な連携を進めることで、エビデンス創出を目指した国の小児・AYA 世代がん患者等に対する妊孕性温存療法研究促進事業を推進していく。今後は、JOFR 登録データと ART 登録データを連結することで、日本での妊孕性温存療法および温存後生殖補助医療の包括的なエビデンス創出が継続的に可能となる見込みである

なお、JOFR のデータを用いた研究の結果、妊孕性温存療法のアクセスや質の向上を志向して、JOFR データを用いたさらなるエビデンスの構築や公的助成の適応範囲（疾患、治療、年齢など）の検証が必要である。さらに、男性における公的助成の対象年齢の拡大に関して、現状の 43 歳未満の実態と比較しつつ今後慎重に検討する必要がある。又、日本における小児・AYA 患者がん患者等の妊孕性温存療法に係る費用の約 3 分の 2 が公的助成により賄われ、残りの約 3 分の 1 が患者の自己負担であることが明らかになった。さらに、年間約 44 億円規模の公的助成により制度運用が可能であることが示されるとともに、患者負担および施設間格差という新たな課題が明確となった。小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存療法および温存

後生殖補助医療への支援は、サバイバーシップ医療の中核をなす重要課題である。そして、患者の負担額は生殖医療施設によって大きく異なることが確認された。

小児・AYA 世代がん患者に本研究促進事業の支援体制のさらなる整備は、若年がんサバイバーの QOL 向上に不可欠であることから、本研究の試算結果に基づき公的助成の拡充と継続的支援を推進することで、経済的理由により妊孕性温存を断念することのない社会の実現が期待される。

Ｆ．健康危険情報

特記すべき事項なし

Ｇ．研究発表

1.　論文発表

Ono M, Takai Y, Harada M, Horie A, Dai Y, Kikuchi E, Miyachi M, Yamamoto T, Fujii N, Kajiyama H, Manabe A, Yasuoka T, Katsuragi S, Mekaru K, Maezawa T, Horage Y, Kataoka S, Nakayama R, Nakajima TE, Kimura F, Shimizu C, Sugimoto K, Takae S, Yumura Y, Nishi H, Furui T, Morishige KI, Watanabe C, Osuga Y, Suzuki N. Out-of-pocket fertility preservation expenses: data from a Japanese nationwide multicenter survey. Int J Clin Oncol. 2024 Dec;29(12):1959-1966.

Kawai T, Harada M, Urata Y, Sanada Y, Kaneda Y, Takai Y, Osuga Y, Suzuki N. Trends in fertility preservation treatments in Japan until 2023: analysis of the Japan Oncofertility Registry. Int J Clin Oncol. 2025 Feb 28;30(4):684-695.

Kuji S, Nozawa K, Toma S, Arao H, Imoto S, Kajiyama H, Kitano A, Kodera Y, Saito R, Sakai R, Taketomi A, Nakayama R, Hiyama E, Futamura M, Matsui M, Yonemura M, Oya M, Suzuki N. Survey of healthcare professionals' awareness of appearance care for Japanese cancer patients and their institutions' appearance care systems: report from the Japan Society of Clinical Oncology. International Journal of Clinical Oncology . 2025; 30: 655-665.

Ono M, Takai Y, Harada M, Horie A, Dai Y, Kikuchi E, Miyachi M, Yamamoto T, Fujii N, Kajiyama H, Manabe A, Yasuoka T, Katsuragi S, Mekaru K, Maezawa T, Horage Y, Kataoka S, Nakayama R, Nakajima TE, Kimura F, Shimizu C, Sugimoto K, Takae S, Yumura Y, Nishi H, Furui T, Morishige KI, Watanabe C, Osuga Y, Suzuki N. Out-of-pocket fertility preservation expenses: data from a Japanese nationwide multicenter survey. International Journal of Clinical Oncology. 2025; 29(12): 1959-1966.

Tomari H, Okitsu O, Mizuno S, Yabuuchi A, Okimura T, Kikuchi H, Furuyama S, Taniguchi K, Tamura I, Ota K, Fukuda Y, Horage Y, Suzuki N. Nationwide Survey on the Status of Oncofertility in Japan and Involvement of Embryologists in the Practice of Fertility Preservation. J Adolesc Young Adult Oncol. 2025; 14(2): 172-179.

Kondo H, Takae S, Furuta S, Sakamoto M, Obayashi J, Keino D, Nakamura K, Tanaka K, Kawaguchi T, Mori M, Furuya N, Nishioka M, Suzuki-Takahashi Y, Nagae C, Sugishita Y, Horage-Okutsu Y, Mori T, Shimizu N, Kitagawa H, Suzuki N. Safety of laparoscopic surgery for ovarian tissue cryopreservation in pediatric patients. International Journal of Clinical Oncology. 2025; 30(6): 1051-1059.

Ahmad MF, Mohd Nor NY, Mohammad Ramadneh MM, Roseli NI, Elias MH, Mat Jin N, Abu MA, Syafruddin SE, Zainuddin AA, Azhar SS, Suzuki N, Abdul Karim AK. Comparative Analysis of Rescue-In Vitro-Maturation (r-IVM) Outcomes i

n Women with Diminished Ovarian Reserve (DOR) Versus Normal Ovarian Reserve (NOR). Biomedicines. 2025; 13(5): 1084.

Kodama M, Terai Y, Fujii M, Ohmichi M, Suzuki N, Mandai M, Okamoto A. Surveillance of laparoscopic systemic para-aortic lymphadenectomy for patients with intermediate- and high-risk endometrial cancer in Japan. The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2025; 51(8): e70001.

Manabe T, Machida H, Mizushima T, Endo S, Takeuchi J, Matsuo K, Yasaka M, Kajiwara H, Fujii S, Nakagawa M, Koike J, Chosokabe M, Miyagi E, Kato K, Suzuki N, Mikami M. Validation of the 2023 FIGO Staging System and Its Concordance with the JSGO Guidelines in Endometrial Cancer: A Multi-Institutional Retrospective Study in Japan. The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2025; 51(8): e70049.

Okimura T, Tomari H, Okitsu O, Mizuno S, Kikuchi H, Yabuuchi A, Furuyama S, Taniguchi K, Tamura I, Ota K, Fukuda Y, Horage Y, Suzuki N. National Survey on the Status of Embryo Freezing for Fertility Preservation in Japan. Journal of Adolescent and Young Adult Oncology. 2026; 15(1): 47-57.

Kawai T, Harada M, Urata Y, Sanada Y, Kaneda Y, Takai Y, Osuga Y, Suzuki N.. Trends in fertility preservation treatments in Japan until 2023: analysis of the Japan Oncofertility Registry, International Journal of Clinical Oncology, 2025; 30(4): 684-695.

Kagawa K, Yoshikawa Y, Koizumi T, Suzuki N. Psychological Aspects of and Support for Survivors Attempting to Conceive During or After Cancer Treatments: A Mixed-Methods Systematic Review., J Adolesc Young Adult Oncol, 2025; 14(2): 129-136.

鈴木直. 「小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024 年 12 月改訂版」の解説, 医学のあゆみ, 2025; 293(4): 280-283.

鈴木直. PGT-M に関する年次報告後の課題, 日本医師会雑誌, 2025; 154 (3) : 276-280.

岩端秀之, 鈴木直. がんにおける妊孕性温存療法, がん診療 2025, 2025; 154(1): 93-95.

Anizah A, Suzuki N, Lee Y, Alias H, Nur Ghani A, Faizal A, Zainuddin A. A scoping review on adaptations incorporated into decision aids for children and adolescents(C&A) cohorts., Translational Pediatrics, 2025; 14(9): 2341-2362.

鈴木直. 総論 生まれてくる子どものための医療(生殖・周産期)に関する生命倫理についての審議・監理・運営する公的プラットフォーム構築の必要性と今後の課題, 周産期医学, 2026; 56(1): 21-24.

高江正道, 鈴木直. 妊孕性温存, 臨床婦人科産科, 2026; 80(1): 117-123.

原田美由紀、鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024 年版の概要. 腫瘍内科 2025. 35(2),191-195 頁

2. 学会発表

原田美由紀　がん・生殖医療連携セミナー「日本癌治療学会妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024 年版の解説」 東京都がん・生殖医療連携ネットワークセミナー　一届けよう、がん・生殖の希望を―　2025 年 3 月

原田美由紀　妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024 年 12 月改訂第２版―改訂のポイントと診療における位置づけ―　埼玉医科大学総合医療センターがん診療支援室主催講演会　2025 年 2 月 web

小野 政徳, 高井 泰, 原田 美由紀, 堀江 昭史, 戴 易丹, 菊地 栄次, 宮地 充, 山本 哲哉, 藤井

伸治, 梶山 広明, 真部 淳, 安岡 稔晃, 桂木 真司, 銘苅 桂子, 前沢 忠志, 洞下 由記, 片岡 伸介, 中山 ロバート, 中島 貴子, 木村 文則, 清水 千佳子, 杉本 公平, 高江 正道, 湯村 寧, 西 洋孝, 古井 辰郎, 森重 健一郎, 渡邊 知映, 大須賀 穣, 鈴木 直. 妊孕性温存に要する患者支払い額に関する全国調査第15回日本がん・生殖医療学会学術集会　2025年2月大阪

原田美由紀　教育講演：JOFR登録データとガイドライン2024年版から紐解くわが国におけるがん・生殖医療の未来　第15回日本がん・生殖医療学会学術集会　2025年2月大阪

松尾 光徳、原田 美由紀、田中 つるぎ、泉 玄太郎、平池 修、廣田 泰、加藤元博、藤代準、大須賀穣　当院における卵巣組織凍結の技術導入　第15回日本がん・生殖医療学会学術集会　2025年2月大阪

原田美由紀　領域横断シンポジウム「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024 年の解説」2024 年版の意義と改訂作業から見えたがん・生殖医療の課題と展望　第62回日本癌治療学会学術集会　2024年10月福岡

原田美由紀　領域横断ワークショップ「女性がんサバイバーへの産婦人科医の貢献」がん患者に対する妊孕性温存の実際とわが国における現状　第62回日本癌治療学会学術集会　2024年10月福岡

原田美由紀　ワークショップ　がん・生殖医療の最前線の現状と課題－卵巣に着目して　「化学療法による卵巣毒性に関する最新知見」第42回日本受精着床学会総会・学術講演会　2024年8月大阪

浦田陽子、原田美由紀、金田悠太郎、眞田裕子、鈴木直、高井泰. 新JOFRの現状と課題. 第12回せとうちART研究会. 2024年9月. 丸亀

浦田陽子、原田美由紀、河井孝夫、眞田裕子、金田悠太郎、髙井泰、大須賀穣、鈴木直. 日本がん・生殖医療登録システム（JOFR）の登録データを用いた 43 歳以上の男性における妊孕性温存療法の実態と上限年齢についての考察. 第 15 回日本がん・生殖医療学会. 2025年2月. 大阪

河井孝夫、原田美由紀、浦田陽子、眞田裕子、金田悠太郎、髙井泰、大須賀穣、鈴木直. 2023年までの日本におけるがん患者の妊孕性温存治療について: JOFRデータを使用した記述研究　第15回日本がん・生殖医療学会学術集会　2025年2月大阪

Miyuki Harada　Session11 ’Benign disease 1: Gynecological conditions and Uterus’「Fertility preservation for patients with endometriosis」　8th World Congress of International Society for Fertility Preservation 2024年11月東京

Miyuki Harada　Session12 JSFP(Japan Society for Fertility Preservation) Session 「The public subsidy program as a part of the Research Promotion Project led by the Japanese Ministry of Health, Labour and Welfare」8th World Congress of International Society for Fertility Preservation 2024年11月東京

Miyuki Harada　KSFP-JSFP Joint Session「Japan Society of Clinical Oncology Clinical Practice Guidelines 2024 for fertility preservation in childhood, adolescent, and young adult cancer patients」The 15th Congress of the Japan Society for Fertility Preservation 2025年2月大阪

Yoko Urata. Oncofertility registry and network in Japan. The 22nd KSFP Annual Conference, 2024年12月. Seoul, the South Korea.

Takao Kawai, Miyuki Harada, Yoko Urata, Yuko Sanada, Yutaro Kaneda, Yasushi Takai, Yutaka Osuga, Nao Suzuki　Trends in Fertility Preservation Treatments for Cancer Patients in Japan until 2023 year: Analysis from Japan Oncofertility Registry　8th World Congress of International Society for Fertility Preservation 2024年11月東京

GYN Oncologist's Apprach to Oncofertility, Hong Kong Fertility Preservation Workshop 2025, 2025年4月.

Nakamura K, Takae S, Suzuki Y, Iwahata H, Sugishita Y, Horage Y, Suzuki N. A study on cases of discarded frozen ovarian tissue for fertility preservation, IFFS World Congress 2025, 2025年4月.

Uekawa A, Sugishita Y, Nakamura K, Suzuki Y, Horage Y, Takae S, Suzuki N. Establishment of minimal residual disease (MRD) evaluation method using ovarian MRD mouse model of leukemia, IFFS World Congress 2025, 2025年4月.

Iwahata H, Horage Y, Natsumi Furuya, Nakamura K, Suzuki Y, Sugishita Y, Takae S, Kondo H, Suzuki N. A Case Report of an HLA-B39 positive Spondylitis Patient Who Achieved Pregnancy Through ART After Discontinuing Opioid Analgesics via Multidisciplinary Treatment, IFFS World Congress 2025, 2025年4月.

Mio Kobayashi, Yoshikazu Kitahara, Sugishita Y, Satoko Osuka, Michio Kitajima, Kazuhiro Kawamura, Yoshimasa Asada, Akira Iwase. Outcome of assisted reproductive technology in patients with diminished ovarian reserve, IFFS World Congress 2025, 2025年4月.

Kaoru Ito, Takae S, Kanamori R, Suzuki N. Search for optimal endocrine environment in mouse ovarian tissue transplantation, IFFS World Congress 2025, 2025年4月.

Lingbo Meng, Mengyi Yang, Takahashi-Suzuki Yuki, Sugishita Yodo, Suzuki Nao, Da Li. Transcriptional and spatial analysis of ovarian tissue cryopreservation and transplantation reveals a role for MitoQ in improving revascularization, IFFS World Congress 2025, 2025年4月.

Suzuki N. Topics on Ovarian Tissue Cryopreservation (Vitrification) and Ovarian Tissue Transplantation, IFFS World Congress 2025, 2025年4月.

Suzuki N. Considering better ovarian transplantation techniques: What are the challenges?, Internatioal Coference on Human fertility Preservation and Advanced Reproductive Medicine & CSFP Academic Conference, 2025年5月.

Suzuki N. Vitrification of ovarian tissue in Japan- Progress in our reserch on ovarian tissue cryopreservation since 2006, Hands on Workshop in Bonn, 2025年5月.

上川篤志, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 白血病マウスモデルにおける微小残存病変 (MRD) 卵巣モデルを用いた MRD 評価法の確立, 第 77 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2025年5月.

荒井大智, 伊藤滉一郎, 叶谷杏子, 高江正道, 鈴木直, 塚田孝祐. 卵巣組織深部の卵胞を高空間分解能で描出するための光干渉断層顕微鏡, 第 64 回日本生体医工学会大会, 2025年6月.

鈴木直. 子宮体癌患者が生児獲得を目指す、妊孕性温存療法の安全性について-がん・生殖医療の視点から, 第 22 回日本婦人科がん会議, 2025年6月.

上田成美, 洞下由記, 東條友紀, 山本紗希, 佐治正太, 八幡将喜, 古谷菜摘, 平野晶大, 高橋由姫, 中村健太郎, 竹内淳, 西村陽子, 久慈志保, 近藤春裕, 杉下陽堂, 大原樹, 柿沼敏行, 高江正道, 鈴木直. 「Shared Decision making を含めたコレコンセプションケアの重症性を痛感した乳がん症例」, 第392回四水会, 2025年6月.

Suzuki N. Oncofertility in Japan:13 years of experience , 5th International Congress of Asian Oncology Society &51stAnnual Meeting of Korean Cancer Association, 2025年7月.

本吉愛, 小泉千恵, 在原卓, 垣本紗代子, 佐々木美紀, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雜

瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 西川徹, 志茂彩華, 白英, 川本久紀, 福田護, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 鈴木直, 津川浩一郎. AYA 世代の乳癌患者における生殖に関する懸念：RCAC 尺度を用いた検討, 第 33 回日本乳癌学会学術総会, 2025 年 7 月.

中村健太郎, 古谷菜摘, 遠藤拓, 鈴木由妃, 澤田紫乃, 岩端秀之, 西村陽子, 洞下由記, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 当院における妊孕性温存を目的とした小児卵子凍結の現状, 第 445 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2025 年 7 月.

Suzuki N. Refining Ovarian Transplantation Techniques in Oncofertility: Current Challenges and Future Directions, Kongres Obstetri Ginekologi Indonesia-KOGI)2025, 2025 年 7 月.

Nakamura K, Takae S, Kikkawa J, Suzuki Y, Iwahata H, Sugishita Y, Horage Y, Suzuki N. Reasons for the discarding frozen ovarian tissue in fertility preservation, 5th Asian Society of Fertility Preservation Congress, 2025 年 8 月.

Kikkawa J, Takae S, Nakamura K, Suzuki Y, Iwahata H,Sugishita Y, Horage Y, Suzuki N. A study of perioperative outcomes in laparoscopic oophorectomy for ovarian tissue cryopreservation across diverse treatment backgrounds in pediatric patients, 5th Asian Society of Fertility Preservation Congress, 2025 年 8 月.

Suzuki N. Introduction of ovarian cortex cryopreservation, the 6th biennial meeting of indonesian association for in Vitro fertilization, 2025 年 8 月.

Suzuki N. Ovarian Tissue transplantation :when and how, the 6th biennial meeting of indonesian association for in Vitro fertilization, 2025 年 8 月.

Suzuki N. Fertility preservation:Ovarian Toxicity and Anticancer Drugs., the 6th biennial meeting of indonesian association for in Vitro fertilization, 2025 年 8 月.

Suzuki N. Structure, Implementation, and Impact of JSFP, Inaugural Meeting 2025 Annual Scientific Conference of the Taiwan Society for Fertility Preservation, 2025 年 9 月.

Suzuki N. Recent Advances in Female Fertility Preservation, Inaugural Meeting 2025 Annual Scientific Conference of the Taiwan Society for Fertility Preservation, 2025 年 9 月.

Arai D, Ito K, Kanaya M, Takae S, Suzuki N, Tsukada K. Optical coherence microscopy for high-resolution imaging of follicles in deep ovarian tissues, IUPESM World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering 2025, 2025 年 9 月.

鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状と次の課題, 第 5 回若手交流会 九州の遺伝医療ば盛り上げようで会, 2025 年 10 月.

吉川純弥, 中村健太郎, 鈴木由妃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 洞下由記, 近藤春裕, 高江正道, 鈴木直. 小児・思春期患者における腹腔鏡下卵巣摘出・凍結術の周術期安全性に関する後方視的検討, 第 150 回関東連合産科婦人科学会, 2025 年 10 月.

″Kamoi C, Fujii N, Kashino C, Suzuki N, Inamoto Y, Fukuda T
. Interview survey in patients who gave birth after hematopoietic cell transplantation, 第 87 回日本血液学会学術集会, 2025 年 10 月.″

鈴木直. 新規抗がん剤の性腺毒性に関する基礎と臨床のギャップについて, 第 63 回日本癌治療学会学術集会, 2025 年 10 月.

鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン改訂のポイント, 第 63 回日本癌治療学会学術集会, 2025 年 10 月.

鈴木直. がん・生殖医療における卵巣組織凍結と卵巣移植の課題と今後の展望, 神戸オンコファーティリティ特別講演会, 2025 年 10 月.

八牧愉二, 長友公美絵, 稲葉雅子,穂坂翔, 鈴木

涼子，福島紘子，高江正道，鈴木直，高田英俊．卵巣組織凍結保存のための化学療法中の施設間移動は小児がん患者において安全に実施可能である：単施設報告，第67回日本小児血液・がん学会学術集会，2025年11月.

鈴木直．小児・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療-卵巣組織凍結・移植に関する最新の話題-，宮崎大学がんセンター 医療連携講演会，2025年12月.

鈴木直．血液がんの妊孕性温存療法について，第2回がん・生殖医療専門心理士研修会，2025年12月.

Suzuki N. Current Issues In Fertility Preservation in Gynaecologic Cancer Pattients, AGOICON2025, 2025年12月.

Suzuki N. Career opportunities:IGCS Perspective, AGOICON2025, 2025年12月.

鈴木直．がん・生殖医療に関する最新の話題とその課題，鳥取婦人科癌セミナー，2026年1月.

鈴木直．血液疾患とがん・生殖医療―最近の深化と課題，令和7年度第3回造血幹細胞移植セミナー，2026年1月.

木山崇，慶野大，河内彰人，君塚優，涌井直人，廣田恵璃，入倉朋也，林亜揮子，岩﨑史記，横須賀とも子，後藤裕明，高江正道，鈴木直，湯村寧，岩端威之，柳町昌克．小児造血細胞移植症例における妊孕性温存の後方視的検討，第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会，2026年2月.

山谷佳子，亀口憲治,猪口浩伸,小林千夏,,洞下由紀，鈴木直．がん治療後のセクシャル・リプロダックティブ・ヘルス・ライツ（SRHR)に関する重要他者と関係性の変遷ーFIT(家族イメージ法）をしようして，第23回日本生殖心理学会学術集会，2026年2月.

鈴木直．がん・生殖医療における、将来こどもを授かる選択枠にかんする意思決定支援，令和7年度県民公開講座 ”その先”を考える医療へ～若年がん患者支援と妊孕性温存～，2026年2月.

鈴木直．がん・生殖医療の現状と課題，令和7年度県民公開講座 ”その先”を考える医療へ～若年がん患者支援と妊孕性温存～，2026年2月.

鈴木直．小児・AYA世代がん患者における凍結卵巣組織を用いた卵巣移植に関する最新の話題，名古屋大が大学院基礎医学特論，2026年2月.

鈴木直．抗がん剤の性腺毒性に関する最近の話題，第16回日本がん・生殖医療学術集会，2026年2月.

上川篤志，井上古都，迎あずさ，杉下陽堂，中村健太郎，鈴木由妃，洞下由記，高江正道，鈴木直．卵巣内微小残存病変の白血病モデルマウスを用いた非侵襲的な検出法の開発，第16回日本がん・生殖医療学術集会，2026年2月.

迎あずさ，上川篤志，井上古都，岩端秀之，杉下陽堂，鈴木由妃，中村健太郎，洞下由記，高江正道，鈴木直．チロシンキナーゼ阻害剤ダサチニブによる卵子成熟異常，第16回日本がん・生殖医療学術集会，2026年2月.

森田明里，中村健太郎，吉川純弥，鈴木由妃，杉下陽堂，洞下由記，高江正道，山谷佳子，安岡稔晃，萩原康子，寺下友佳子，佐藤美紀子，森定徹，三善陽子，寺内公一，向井幹夫，鈴木直．小児がん経験者における移行期医療普及のための資材開発，第16回日本がん・生殖医療学術集会，2026年2月.

吉田高士，洞下由記，森田明里，吉川純弥，中村健太郎，鈴木由妃，岩端秀之，杉下陽堂，柿沼敏行，高江正道，鈴木直．がん・生殖医療における死後生殖の是非についての一般市民に対する意識調査研究，第16回日本がん・生殖医療学術集会，2026年2月.

山谷佳子，猪口浩伸，岩端秀之，森田明里，中村健太郎，鈴木由妃，杉下陽堂，洞下由記，高江正道，鈴木直．がん治療時に妊孕性の危機（定価・喪失）を体験した女性がん患者のニーズ，第16回日本がん・生殖医療学術集会，2026年2月.

本吉愛,小泉智恵，鈴木由妃，杉下陽堂，鈴木直，

津川浩一郎，洞下由記，中村健太郎．日本簿版 RCAC 尺度を用いた若年乳癌患者における生殖に関する懸念に評価，第 16 回日本がん・生殖医療学術集会，2026 年 2 月．
鈴木直．生まれてくるこどものための医療に関わる生命倫理の諸題，令和 7 年度（第 60 回）長崎県医師会母体保護法指定医師研修会，2026 年 2 月．
鈴木直．妊よう性温存とその選択肢～がん・生殖医療の最新の話題，公益財団保人 SGH 財団 第 24 回市民公開講座，2026 年 3 月．
鈴木直．がん・生殖医療の現状とその後の課題，妊娠期がんシンポジウム 2026 ―みんなで守ろう 2 つの命，2026 年 3 月．
Miyuki Harada. Oncofertility in Japan. MDT Symposium on Female Fertility Protection and Preservation Conference hosted by Chongqing Reproductive Health Association. 2025 Sep. Web
Miyuki Harada. Fertility preservation in Japan - for cancer patients and beyond. The 24th Biannual Conference of Korean Society for Fertility Preservation. 2025 Nov. Seoul
原田美由紀.「妊孕性温存療法―診療の実際から最新の話題まで―」．AYA 世代のがん治療について考える会．2025 年 4 月．東京
原田美由紀.「がん・生殖医療ーわが国における実態から当院における運用の実際までー」．杏林大学がんセンター主催院内講演会．2025 年 10 月．東京，10 月
原田美由紀.「生殖細胞凍結保存と妊孕性温存：その意義と課題」．第 51 回日本低温医学会総会．2025 年 11 月．東京
原田美由紀.「妊孕性温存」．2025 年度東大病院がん医療アップデートシリーズ第 8 回．2025 年 11 月．東京
原田美由紀.「東京都がん・生殖医療連携ネットワークの活動と取り組み」.2025 年度大阪がん・生殖医療ネットワーク 講演会．2025 年 11 月．大阪
原田美由紀.「東京都がん・生殖医療連携ネットワークの活動と取り組み」．第 10 回埼玉県がん・生殖医療ネットワーク．2026 年 1 月．埼玉
原田美由紀.「JOFR の意義と展望」．第 16 回日本がん・生殖医療学会．2026 年 2 月．奈良
浦田陽子．一般社団法人日本女性薬剤師会 2025 年度臨床薬学研修会　婦人科ファーマシューティカルケア婦人科専門領域研修－３　不妊症と不妊治療－保険診療から妊孕性温存まで－.2025 年 10 月．オンライン（Zoom ウェビナーオンライン研修）
浦田陽子．第 30 回日本生殖内分泌学会「卵巣組織凍結による妊孕性温存」．2025 年 11 月．東京
浦田陽子．2025 年度第 3 回東京都がん・生殖医療連携ネットワークセミナー第 2 部がん・生殖医療連携セミナー講座「妊孕性温存療法の基本とカウンセリングの実際」．2026 年 1 月．東京

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1．特許取得
無し

2．実用新案登録
無し

3.その他
特記すべき事項なし

研究班参加施設

資料①

NO.	都道府県	医療機関名
1	北海道	手稲渓仁会病院産婦人科
2	北海道	医療法人社団　神谷レディースクリニック
3	北海道	JA北海道厚生連札幌厚生病院産婦人科
4	北海道	札幌医科大学附属病院
5	青森	弘前大学医学部附属病院産科婦人科
6	岩手	医療法人社団レディースクリニック京野　京野アートクリニック盛岡
7	宮城	東北大学病院産婦人科
8	宮城	医療法人社団レディースクリニック京野　京野アートクリニック仙台
9	宮城	仙台ARTクリニック
10	秋田	秋田大学医学部附属病院産婦人科
11	山形	山形大学医学部附属病院産婦人科
12	福島	医療法人いわき婦人科
13	茨城	筑波学園病院産婦人科
14	栃木	医療法人三秀会中央クリニック
15	群馬	医療法人愛弘会横田マタニティーホスピタル
16	群馬	医療法人社団セキール会セキールレディースクリニック
17	群馬	医療法人舘出張佐藤会高崎ARTクリニック
18	埼玉	獨協医科大学埼玉医療センター・リプロダクションセンター
19	千葉	千葉大学医学部附属病院婦人科
20	千葉	医療法人鉄蕉会亀田総合病院　生殖医療科（ARTセンター）
21	千葉	医療法人鉄蕉会　亀田IVFクリニック幕張
22	東京	医療法人財団順和会山王病院
23	東京	順天堂大学産科婦人科学講座
24	東京	東京医科歯科大学医学部附属病院
25	東京	日本医科大学付属病院
26	東京	東京大学医学部附属病院女性診療科・産科
27	東京	昭和大学病院産婦人科
28	東京	東邦大学医療センター大森病院産婦人科
29	東京	東京医科大学病院
30	東京	加藤レディスクリニック
31	東京	慶應義塾大学病院
32	東京	医療法人財団荻窪病院虹クリニック
33	東京	医療法人社団レディースクリニック京野　京野アートクリニック高輪
34	東京	医療法人社団レディースクリニック京野　京野アートクリニック品川
35	東京	医療法人社団杉一会　杉山産婦人科　新宿
36	東京	浅田レディース品川クリニック
37	神奈川	聖マリアンナ医科大学病院生殖医療センター
38	神奈川	横浜市立大学附属市民総合医療センター生殖医療センター
39	神奈川	医療法人社団桐杏会　メディカルパーク横浜
40	山梨	山梨大学医学部附属病院・生殖医療センター
41	静岡	社会福祉法人　聖隷福祉事業団　総合病院　聖隷浜松病院
42	静岡	浜松医科大学医学部附属病院
43	静岡	俵IVFクリニック
44	静岡	いながきレディースクリニック
45	新潟	新潟大学医歯学総合病院産婦人科
46	石川	医療法人社団康仁会　金沢たまごクリニック
47	福井	福井大学医学部附属病院産婦人科
48	岐阜	国立大学法人岐阜大学医学部附属病院産婦人科
49	岐阜	医療法人セントポーリア操レディスホスピタル
50	岐阜	医療法人愛育会クリニックママ
51	愛知	名古屋第一赤十字病院産婦人科

NO.	都道府県	医療機関名
52	愛知	名古屋大学医学部附属病院産婦人科
53	愛知	公立大学法人　名古屋市立大学医学部附属病院産婦人科
54	愛知	小牧市民病院
55	愛知	医療法人成田育成会成田産婦人科
56	愛知	浅田レディース勝川クリニック
57	愛知	浅田レディース名古屋駅前クリニック
58	三重	三重大学医学部附属病院高度生殖医療センター
59	滋賀	滋賀医科大学医学部附属病院
60	京都	京都府立医科大学附属病院産婦人科
61	京都	医療法人財団今井会足立病院　足立病院
62	京都	医療法人田村秀子婦人科医院
63	大阪	大阪急性期・総合医療センター産科・婦人科
64	大阪	大阪大学医学部附属病院産婦人科
65	大阪	関西医科大学附属病院産婦人科
66	大阪	近畿大学病院
67	大阪	医療法人定生会谷口病院
68	大阪	なかむらレディースクリニック
69	大阪	医療法人越田クリニック
70	大阪	医療法人三慧会IVF大阪クリニック
71	大阪	IVFなんばクリニック
72	大阪	社会医療法人生長会　府中のぞみクリニック
73	大阪	医療法人三慧会HORACグランフロント大阪クリニック
74	兵庫	兵庫医科大学病院産婦人科
75	奈良	医療法人平治会　ミズクリニック　メイワン
76	和歌山	うつのみやレディースクリニック
77	鳥取	鳥取県立中央病院
78	鳥取	医療法人社団ミオ・ファティリティ・クリニック
79	島根	島根大学医学部附属病院産婦人科
80	岡山	岡山大学病院
81	岡山	三宅医院
82	岡山	医療法人社団　岡山二人クリニック
83	広島	県立広島病院生殖医療科
84	広島	医療法人絹谷産婦人科
85	広島	広島HARTクリニック
86	広島	よしだレディースクリニック内科・小児科
87	山口	山口県立総合医療センター婦人科
88	山口	山口県済生会下関総合病院産婦人科
89	徳島	徳島大学病院産婦人科
90	香川	高松赤十字病院
91	香川	厚仁病院産婦人科
92	愛媛	愛媛大学医学部附属病院産婦人科
93	愛媛	医療法人矢野産婦人科
94	高知	レディスクリニックコスモス
95	高知	高知医療センター
96	福岡	九州大学病院
97	福岡	医療法人社団高邦会高木病院産婦人科
98	福岡	医療法人中央レディスクリニック
99	福岡	医療法人アイブイエフ詠田クリニック
100	福岡	医療法人蔵本ウイメンズクリニック
101	福岡	医療法人社団高邦会福岡山王病院
102	佐賀	医療法人永世会　谷口眼科婦人科
103	長崎	長崎大学病院産科婦人科
104	熊本	熊本大学医学部附属病院産科婦人科

NO.	都道府県	医療機関名
105	熊本	福田病院　アートセンター
106	熊本	医療法人社団ソフィア愛育会ソフィアレディースクリニック水道町
107	大分	大分大学医学部附属病院産婦人科
108	大分	医療法人セント・ルカ　セント・ルカ産婦人科／セント・ルカ生殖医療研究所
109	鹿児島	竹内レディースクリニック附設高度生殖医療センター
110	鹿児島	松田ウイメンズクリニック
111	沖縄	琉球大学医学部附属病院　周産母子センター
112	千葉	高橋ウィメンズクリニック
113	東京	東京女子医科大学病院
114	福島	福島県立医科大学附属病院産婦人科
115	茨城	筑波大学附属病院
116	埼玉	埼玉医科大学総合医療センター
117	和歌山	日本赤十字社和歌山医療センター産婦人科
118	沖縄	社会医療法人　友愛会　友愛医療センター
119	鳥取	鳥取大学医学部附属病院
120	宮城	スズキ記念病院
121	東京	ローズレディースクリニック
122	東京	はなおかIVFクリニック品川
123	北海道	国家公務員共済組合連合会　斗南病院
124	茨城	おおぬきARTクリニック水戸
125	群馬	JCHO群馬中央病院産婦人科
126	群馬	群馬大学医学部附属病院産婦人科
127	千葉	順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院
128	山形	医療法人社団　ゆめクリニック
129	東京	東京慈恵会医科大学附属病院
130	京都	京都大学医学部附属病院・高度生殖医療センター
131	大阪	大阪医科薬科大学病院
132	大阪	医療法人オーク会オーク住吉産婦人科
133	島根	島根県立中央病院産婦人科
134	熊本	医療法人聖命愛会ART女性クリニック
135	富山	医療法人社団あいゆう会あいARTクリニック
136	愛知	トヨタ記念病院不妊センタージョイファミリー科
137	東京	杉山産婦人科丸の内
138	東京	聖路加国際病院
139	福岡	浜の町病院
140	宮崎	宮崎大学医学部附属病院
141	東京	リプロダクションクリニック東京
142	鹿児島	レディースクリニックあいいく
143	長野	JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院産婦人科
144	長野	長野市民病院
145	兵庫	英ウイメンズセントラルファティリティクリニック
146	大阪	リプロダクションクリニック大阪
147	宮崎	ARTレディスクリニックやまうち
148	千葉	東京歯科大学市川総合病院
149	長野	医療法人登誠会諏訪マタニティークリニック附属諏訪リプロダクションセンター
150	岡山	倉敷中央病院
151	北海道	北海道大学病院
152	愛知	おち夢クリニック名古屋
153	愛知	まるたARTクリニック
154	栃木	自治医科大学附属病院産婦人科
155	福岡	医療法人鶴生会　MRしょうクリニック
156	北海道	旭川医科大学
157	神奈川	山下湘南夢クリニック

NO.	都道府県	医療機関名
158	愛知	なごやARTクリニック
159	静岡	医療法人社団奨寿会　アクトタワークリニック
160	東京	虎の門病院
161	神奈川	済生会横浜市東部病院
162	兵庫県	徐クリニック
163	鹿児島	あかつきARTクリニック
164	高知	高知大学医学部附属病院産科婦人科
165	東京	国立成育医療研究センター
166	福岡	医療法人　原三信病院
167	新潟	ミアグレースクリニック新潟
168	岐阜	クリニックママ
169	熊本	医療法人社団　杏風会　川野病院
170	福岡	久留米大学病院
171	大阪	後藤レディースクリニック
172	長野	信州大学
173	栃木	那須赤十字病院
174	東京	日本大学板橋病院
175	山口	徳山中央病院
176	福岡	医療法人 福岡泌尿器リプロダクションクリニック
177	東京	木場公園クリニック
178	長野	長野赤十字病院（泌尿器）
179	東京	松本レディースクリニック
180	東京	オーク銀座レディースクリニック
181	岩手	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター
182	栃木	獨協医科大学病院
183	北海道	KKR札幌医療センター
184	栃木	国際医療福祉大学病院
185	兵庫	医療法人協和会　第二協立病院
186	神奈川	矢内原ウィメンズクリニック
187	福岡	日浅レディースクリニック
188	愛知	ARTクリニックみらい
189	神奈川	北里大学病院
190	大阪	オーク梅田レディースクリニック
191	静岡	静岡県立総合病院
192	愛知	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
193	愛知	豊橋市民病院
194	福岡	セントマザー産婦人科医院
195	東京	田園都市レディースクリニック二子玉川
196	東京	東京衛生アドベンチスト病院附属　めぐみクリニック
197	岐阜	社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院
198	神奈川	藤沢IVFクリニック
199	東京	国立国際医療研究センター病院
200	神奈川	田園都市レディースクリニック
201	愛知	藤田医科大学病院
202	大阪	うめだファティリティークリニック
203	神奈川	メディカルパークベイフロント横浜
204	愛知	山口レディスクリニック
205	長野	長野赤十字病院
206	愛知	ART Clinic ASADA
207	東京	東京都立大塚病院

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
小田原圭, 鈴木直	各論7 慢性疾患 がん治療中，がんサバイバー	荒田尚子, 三戸麻子, 岡崎有香	プレコンセプションケア	メジカルビュー社	東京	2024	265-267
鈴木直	第一章抗がん薬の副作用と治療 18 性機能不全	岡元るみ子	がん化学療法副作用対策ハンドブック 第4版	羊土社	東京	2025/	250-255
原田美由紀, 鈴木直	『小児・AYA世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン2024年12月改訂 第2版』の概要	腫瘍内科編集部会長	腫瘍内科 第35巻 第2号	科学評論社	東京	2025	191-195
高井泰	ヒト生殖腺の凍結保存法	日本卵子学会	生殖補助医療（ART） 胚培養の理論と実践 改訂版	近代出版	東京	2024	277-281
監修；古井辰郎	第４章　性と妊娠のこと	監修；一般社団法人AYAがんの医療と支援のあり方研究会	AYA世代がん患者の生活を支える37のヒント	株式会社法研	東京都	2024	92-117
古井辰郎		日本癌治療学会；編	小児・AYA世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン.（vol 2024年12月改訂　第2版）	金原出版株式会社	東京都	2024	
土田 優美, 梅沢 夏佳，清水 正樹, 松下 雅和，小野 政徳, 浦田 陽子, 大須賀 智子	膠原病	鈴木 直	小児・AYA世代癌患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン	金原出版株式会社	東京	2024	537-556
堀江昭史	第5章 16-2)がん患者に対する調節卵巣刺激		生殖医療の必修知識2023 日本生殖医学会　編	杏林舎	日本	2023	p436-440
堀江昭史	ChapterII 妊孕性温存療法 1 胚(受精卵)	柴原浩章	生殖医療フロントラインMOOK3 がん生殖医療-がんサバイバーシップ向上を志向して	中外医学社	日本	2023	p87-91

鈴木直	AYA世代がん患者に対する妊孕性温存（がん・生殖医療）	宮地良樹 総編集	オールラウンド外来診療ガイドブック	中山書店	東京	2025	598-600
鈴木直	がん・生殖医療	監修：綾部琢哉 編集：板倉敦夫、高井 泰	標準産科婦人科学　第6版	医学書院	東京	2026	131-132
洞下由紀, 鈴木直	医原性POI	石塚文平	Premature Ovarian Insufficiency 早発卵巣不全	医歯薬出版	東京	2026	67-74
洞下由紀, 鈴木直	医原性POIの治療	石塚文平	Premature Ovarian Insufficiency 早発卵巣不全	医歯薬出版	東京	2026	166-173
小野政徳	挙児希望の乳癌患者に対し卵巣組織凍結は推奨されるか？	田村宜子	乳癌患者の妊娠・出産と生殖医療に関する診療ガイドライン	金原出版	東京	2026	

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Takae S, Harada M, Nakamura K, Furuyama S, Ono M, Osuga Y, Suzuki N	Survey on the implementation status and reproductive outcomes of oocyte and ovarian tissue cryopreservation in Japan: Historical comparison with nationwide surveys	J Obstet Gynaecol Res.	50(4)	709-718	2024
Nakamura K, Terashita Y, Mannabe A, Suzuki N	Survey of Transitional Care Between Pediatrics and Obstetrics/Gynecology in Japan	Journal of Adolescent and Young Adult Oncology	13(3)	523-533	2024
Takekawa Y, Sugimoto K, Masaki K, Koizumi T, Mori H, Shiraishi E, Maezawa T, Tanigaki S, Shirai C, Suzuki N	Differences Between Cancer Survivors and Healthy Subjects in Factors that Facilitate and Obstruct the Use of the Foster Parent System and Special Adoption System: A Nationwide Cross-Sectional Study in Japan	J Adolesc Young Adult Oncol.	13(3)	534-540	2024

Takae S, Harada M, Nakamura K, Furuyama S, Ono M, Osuga Y, Suzuki N	Reproductive outcomes of embryo cryopreservation and transfer at the start-up phase of fertility preservation in Japan	Reproductive Medicine and Biology	23(1)	e12581	2024
Asai-Sato M, Takahashi T, Ota K, Komiya H, Iwasa T, Ogishima S, Suzuki N	Attitudes toward subsequent primary cancer prevention among survivors of childhood, adolescent, and young adult (CAYA) cancer in Japan: Results of a comprehensive questionnaire survey on long-term women's health after CAYA cancer	Journal of Gynaecologic Oncology	36(2)	e29	2024
Tomari H, Okitsu O, Mizuno S, Yabuuchi A, Okimura T, Kikuchi H, Furuyama S, Taniguchi K, Tamura I, Ota K, Fukuda Y, Horage Y, Suzuki N	Nationwide Survey on the Status of Oncofertility in Japan and Involvement of Embryologists in the Practice of Fertility Preservation	J Adolesc Young Adult Oncol	14(2)	172-179	2024
洞下由記, 岩端秀之, 古谷菜摘, 中村健太郎, 田雜瑞穂, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 本吉愛, 髙江正道, 津川浩一郎, 鈴木直	乳がん術後内分泌療法後に短期間で生児を得た事例の検証	日本がん・生殖医療学会誌	8(1)	25-30	2025
中村健太郎, 鈴木直	がん・生殖医療～男性患者の妊孕性温存編～	母性衛生	65(1)	170-177	2024
Yoshida K, Hashimoto T, Koizumi T, Suzuki N	Psychosocial experiences regarding potential fertility loss and pregnancy failure after treatment in cancer survivors of reproductive age to identify psychosocial care needs: a systematic review	Supportive Care in Cancer	32(6)	337+18	2024
中村健太郎, 鈴木直	がん・生殖医療～女性患者の妊孕性温存編～	母性衛生	65(2)	348-356	2024
Kagawa K, Yoshikawa Y, Koizumi T, Suzuki N	Psychological Aspects of and Support for Survivors Attempting to Conceive During or After Cancer Treatments: A Mixed-Methods Systematic Review.	J Adolesc Young Adult Oncol	Online ahead of print		2024

Ahmad MF, Elias MH, Mat Jin N, Abu MA, Syafruddin SE, Zainuddin AA, Suzuki N, Abdul Karim AK	Oocytes Quality Assessment—The Current Insight: A Systematic Review	biology	13(12)	978	2024
中村健太郎, 鈴木直	がん・生殖医療～小児患者の妊孕性温存編～	母性衛生	65(4)	720-726	2025
原田美由紀, 鈴木直	『小児・AYA世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン2024年12月改訂 第2版』の概要	腫瘍内科	35(2)	191-195	2025
T.Koike, S.Yamamoto, T.Furui, C.Miyazaki, H.Ishikawa and K.-l.Morishige	Evaluation of the Relationship Between Equol Production and the Risk of Locomotive Syndrome in Very Elderly Women	Int J Probiotics Previotics	18	1-7	2023
Masanori Ono, Miyuki Harada, Akihito Horie, Yidan Dai, Itsuko Horiguchi, Eiji Kikuchi, Fuminori Kimura, Tomoe Koizumi, Mitsuru Komeya, Naoki Mizunuma, Kumiko Oseto, Kuniaki Ota, Chikako Shimizu, Kohei Sugimoto, Seido Takae, Emi Takeuchi, Hirotaka Nishi, Yasushi Yumura, Tatsuro Furui, Yasushi Takai, Ken-Ichirou Morishige, Chie Watanabe, Yutaka,Osuga, Nao Suzuki	Effect of a web-based fertility preservation training program for medical professionals in Japan	Int J Clin Oncol	28(9)	1112-1120	2023

Shigematsu K, Shimizu C, Furui T, Kataoka S, Kawai K, Kishida T, Kuwahara A, Maeda N, Makino A, Mizunuma N, Morishige KI, Nakajima TE, Ota K, Ono M, Shiga N, Tada Y, Takae S, Tamura N, Watanabe C, Yumura Y, Suzuki N, Takai Y.	Current Status and Issues of the Japan Oncofertility Registry.	J Adolesc Young Adult Oncol	12(4)	584-591	2023
Tomomi Shiga, Tatsuro Furui and Ken-ichirou Morishige	Examination of risk factors for high Edinburgh postnatal depression scale scores: a retrospective study at a single university hospital in Japan	Maternal Health, Neonatology and Perinatology	10(1)	6	2024
久保田哲、栗谷佳宏、海野ひかり、隅蔵智子、森重健一郎、松岡圭子、竹村昌彦	片側付属器摘出術後の再発卵巣境界悪性腫瘍に対し、術中採卵を実施した1例－症例報告と文献的考察－	産婦の進歩	75（3）	336−343	2023
栗谷佳宏、久保田哲、澤田真明、高尾徹也、森重健一郎、竹村昌彦	医原性早発卵巣不全の不妊女性3例に対するエストロゲン療法の治療経験	産婦人科の進歩	76（1）	32−37	2024
Kawai T, Harada M, Urata Y, Sanada Y, Kaneda Y, Takai Y, Osuga Y, Suzuki N	Trends in fertility preservation treatments in Japan until 2023: analysis of the Japan Oncofertility Registry	Int J Clin Oncol	30 (4)	684-695	2025
Kitahara Y, Hiraike O, Ishikawa H, Kugu K, Takai Y, Yoshino O, Ono M, Maekawa R, Ota I, Iwase A, Subcommittee "Standardization of diagnosis for menstrual disorders" in Reproductive Endocrinology Committee J SoO, Gynecology	Diagnosis of abnormal uterine bleeding based on the FIGO classification: A systematic review and expert opinions	J Obstet Gynaecol Res	50 (10)	1785-1794	2024

Kitahara Y, Hiraike O, Ishikawa H, Kugu K, Takai Y, Yoshino O, Ono M, Maekawa R, Ota I, Iwase A	A nationwide survey of diagnostic procedures for abnormal uterine bleeding in Japan	J Obstet Gynaecol Res	50 (9)	1675-1680	2024
Kashiwabara S, Yabe S, Samejima K, Narita T, Itaya Y, Era S, Matsunaga S, Nagai T, Kikuchi A, Takai Y	A study on the efficacy and safety of long-term adjusted low-dose gonadotropin-releasing hormone agonist therapy for uterine fibroids and adenomyosis	J Obstet Gynaecol Res	50 (12)	2319-2326	2024
Izumida Y, Omura T, Fujiwara M, Nukaya S, Yoneyama A, Boubacar S, Yabe S, Noguchi R, Nakayama S, Muraoka W, Okuno Y, Miyashita S, Ishihara Y, Moriwaki Y, Otani R, Adachi J, Tanabe K, Yamano Y, Takai Y, Honjo M	Patient-Centric Approach to Personalized Electronic Medical Records via QR Code in Japan	Interact J Med Res	13	e57332	2024
Inoue K, Yabe S, Kashiwabara S, Itaya Y, Era S, Kikuchi A, Takai Y	A pregnant woman with long-standing, retained intraabdominal glass shards who gave birth to a live infant with no complications: a case report	J Med Case Rep	18 (1)	74	2024
柏原 聡, 高井 泰	【泌尿器科医が知っておくべき「がんサポーティブケアの最前線」】がん・生殖医療の現状と課題	泌尿器外科	38 (2)	107-114	2025
高井 泰	【少子化時代の妊孕性温存療法】医学的卵子凍結・胚凍結	医学のあゆみ	293 (4)	288-293	2025
野口 梨, 高井 泰	【フローチャートでわかる　婦人科外来診療パーフェクトブック】生殖・内分泌　卵巣過剰刺激症候群	産婦人科の実際	73 (11)	1395-1406	2024

高井 泰	【異常子宮出血(AUB)の診断と治療-婦人科診療の基本を鍛える!】診断総論　AUBの実像をより正確に把握する　異常子宮出血(AUB)とは?　わが国の「月経異常」と比較したFIGO AUB分類の理解	臨床婦人科産科	78 (5)	368-375	2024
五味 陽, 高井 泰	【どうする?産婦人科救急-ハイリスク患者の周術期管理-】どうする?腹腔内出血の周術期管理　手術予定患者の卵巣腫瘍破裂への対応	産科と婦人科	91 (7)	779-783	2024
Takenaka M, Takase H, Suzuki N, Saigo C, Takeuchi T, and Furui T.	Effect and mechanisms of cyclophosphamide-induced ovarian toxicity on the quality of primordial follicles with respect to age at treatment initiation.	Reproductive Biology	24	100959	2024
Ono M, Takai Y, Harada M, Horie A, Dai Y, Kikuchi E, Miyachi M, Yamamoto T, Fujii N, Kajiyama H, Manabe A, Yasuoka T, Katsuragi S, Mekaru K, Maezawa T, Horage Y, Kataoka S, Nakayama R, Nakajima TE, Kimura F, Shimizu C, Sugimoto K, Takae S, Yumura Y, Nishi H, Furui T, Morishige KI, Watanabe C, Osuga Y, Suzuki N	Out-of-pocket fertility preservation expenses: data from a Japanese nationwide multicenter survey	Int J Clin Oncol.	29(12)	1959-1966	2024
中澤 紘右, 鷺坂 誠宏, 菊地 孝行, 河村 ともみ, 山中 紋奈, 上野 啓子, 小野 政徳, 西 洋孝	卵巣予備能低下を伴う術後再発子宮内膜症に腹腔鏡手術と生殖補助医療を施行し妊娠成立した1例	東京産科婦人科学会会誌	73巻1号	128-133	2024

大曾根 快, 片桐 誠一朗, 荒井 勇弥, 山田 晃子, 勝呂 多光子, 赤羽 大悟, 古屋 奈穂子, 藤本 博昭, 小野 政徳, 後藤 明彦	Philadelphia染色体陽性急性リンパ芽球性白血病寛解導入療法後に調節卵巣刺激で発症した卵巣過剰刺激症候群	臨床血液	65巻2号	69-73	2024
竹島徹平、齋藤智樹、苅部樹里衣、黒田晋之介、湯村 寧	男性小児がん患者に対する妊孕性温存療法（カウンセリング・onco-TESEを中心に）	日本がん・生殖医療学会雑誌	7	6-10	2024
苅部樹理衣、竹島 徹平、栃原しおり、上野寛枝、湯村 寧	Onco-TESEによる精子回収不可能であったが射出精子の凍結により妊孕性温存し得た異時性両側性精巣腫瘍の１例	日本がん・生殖医療学会雑誌	7	54-56	2024
Karibe J, Takeshima T, Kuroda S, Takamoto D, Kawahara T, Osaka K, Teranishi JI, Murase M, Makiyama K, Uemura H, Yumura Y	Testicular sperm extraction for fertility preservation in young patients with cancer.	Transl Androl Urol	2024 Aug 31;13(8)	1463-1471	2024
Maezawa T, Suzuki N, Takeuchi H, Nishioka M, Hidaka M, Manabe A, Koga Y, Kawaguchi H, Sasahara Y, Tachibana M, Iwamoto S, Horie A, Hiramatsu H, Kato M, Harada M, Yuza Y, Hirayama M, Takita J, Ikeda T, Matsumoto K.	Challenges to Widespread Use of Fertility Preservation Facilities for Pediatric Cancer Patients in Japan.	J Adolesc Young Adult Oncol.	Aug 3	doi: 10.1089/jayao.2023.0059.	2023

Ono M, Harada M, Horie A, Dai Y, Horiguchi I, Kikuchi E, Kimura F, Koizumi T, Komeya M, Mizunuma N, Oseto K, Ota K, Shimizu C, Sugimoto K, Takae S, Takeuchi E, Nishi H, Yumura Y, Furui T, Takai Y, Morishige KI, Watanabe C, Osuga Y, Suzuki N.	Effect of a web-based fertility preservation training program for medical professionals in Japan.	Int J Clin Oncol.	Jun 15	doi: 10.1007/s10147-023-02366-2.	2023
Maezawa T, Takae S, Takeuchi H, Takenaka M, Ota K, Horie A, Suzuki T, Takai Y, Kimura F, Furui T, Ikeda T, Suzuki N.	A Nationwide Survey Aimed at Establishing an Appropriate Long-Term Storage and Management System for Fertility Preserving Specimens in Japan.	J Adolesc Young Adult Oncol.	12(3)	450-457	2023
Takao Kawai, Miyuki Harada, Yoko Urata, Yuko Sanada, Youtaro Kaneda, Yasushi Takai, Yutaka Osuga, Nao Suzuki	Trends in fertility preservation treatments in Japan until 2023: analysis of the Japan Oncofertility Registry	Int J Clin Oncol	30	684-695	2025
大久保 美紀, 杉本 公平, 阿部 友嘉, 池永 晃大, 杉江 美穂, 正木 希世, 大坂 晃由, 竹川 悠起子, 岩端 威之, 小泉 智恵, 岡田 弘	不妊治療患者におけるNIPTに対する認識及び選好調査　生殖医療現場における望ましい情報提供の方法とは	日本生殖心理学会誌	10巻2号	Page16-23	2024
辻井 健太郎, 池永 晃大, 丸茂 雄太, 正木 希世, 稲垣 里咲, 土屋 慶, 大久保 美紀, 竹川 悠起子, 岩端 威之, 根本 興平, 飯塚 真, 濱田 佳伸, 杉本 公平, 坂本 秀一, 岡田 弘, 高倉 聡	当院リプロダクションセンターにおけるCAYAがん患者の生殖医療診療の現状	埼玉産科婦人科学会雑誌	54巻2号	Page139-143	2024

正木 希世, 杉本 公平, 池永 晃大, 大久保 美紀, 竹川 悠起子, 杉江 美穂, 大坂 晃由, 岩端 威之, 小泉 智恵, 岡田 弘	【がんサバイバーにおける女性医学-産婦人科医にできること】がんサバイバーのリプロダクション　がん治療前後の生殖医療	産婦人科の実際	73巻12号	Page1535-1541	2024
瀬戸口 誠, 中山 哲成, 泉 敬太, 池添 慧梨香, 井上 稔, 辻岡 博貴, 韮塚 あす実, 長谷川 金太朗, 大坂 晃由, 安田 友佳, 福田 悠一, 井上 泰之, 岩端 威之, 徳本 直彦, 宋 成浩, 井手 久満, 齋藤 一隆	国産手術支援ロボット「hinotori」によるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術の導入とその治療成績	Japanese Journal of Endourology and Robotics	37巻1号	Page125-130	2024
Kuji S, Nozawa K, Toma S, Arao H, Imoto S, Kajiyama H, Kitano A, Kodera Y, Saito R, Sakai R, Taketomi A, Nakayama R, Hiyama E, Futamura M, Matsui M, Yonemura M, Oya M, Suzuki N	Survey of healthcare professionals'awareness of appearance care for Japanese cancer patients and their institutions'appearance care systems: report from the Japan Society of Clinical Oncology	International Journal of Clinical Oncology	30	655–665	2025
Ono M, Takai Y, Harada M, Horie A, Dai Y, Kikuchi E, Miyachi M, Yamamoto T, Fujii N, Kajiyama H, Manabe A, Yasuoka T, Katsuragi S, Mekaru K, Maezawa T, Horage Y, Kataoka S, Nakayama R, Nakajima TE, Kimura F, Shimizu C, Sugimoto K, Takae S, Yumura Y, Nishi H, Furui T, Morishige KI, Watanabe C, Osuga Y, Suzuki N	Out-of-pocket fertility preservation expenses: data from a Japanese nationwide multicenter survey	International Journal of Clinical Oncology	29(12)	1959-1966	2025

Tomari H, Okitsu O, Mizuno S, Yabuuchi A, Okimura T, Kikuchi H, Furuyama S, Taniguchi K, Tamura I, Ota K, Fukuda Y, Horage Y, Suzuki N	Nationwide Survey on the Status of Oncofertility in Japan and Involvement of Embryologists in the Practice of Fertility Preservation	J Adolesc Young Adult Oncol	14(2)	172-179	2025
Kondo H, Takae S, Furuta S, Sakamoto M, Obayashi J, Keino D, Nakamura K, Tanaka K, Kawaguchi T, Mori M, Furuya N, Nishioka M, Suzuki-Takahashi Y, Nagae C, Sugishita Y, Horage-Okutsu Y, Mori T, Shimizu N, Kitagawa H, Suzuki N	Safety of laparoscopic surgery for ovarian tissue cryopreservation in pediatric patients	International Journal of Clinical Oncology	30(6)	1051-1059	2025
Ahmad MF, Mohd Nor NY, Mohammad Ramadneh MM, Roseli NI, Elias MH, Mat Jin N, Abu MA, Syafruddin SE, Zainuddin AA, Azhar SS, Suzuki N, Abdul Karim AK	Comparative Analysis of Rescue-In Vitro-Maturation (r-IVM) Outcomes in Women with Diminished Ovarian Reserve (DOR) Versus Normal Ovarian Reserve (NOR)	Biomedicines	13(5)	1084	2025
Okimura T, Tomari H, Okitsu O, Mizuno S, Kikuchi H, Yabuuchi A, Furuyama S, Taniguchi K, Tamura I, Ota K, Fukuda Y, Horage Y, Suzuki N	National Survey on the Status of Embryo Freezing for Fertility Preservation in Japan	Journal of Adolescent and Young Adult Oncology	15(1)	47-57	2026
Kawai T, Harada M, Urata Y, Sanada Y, Kaneda Y, Takai Y, Osuga Y, Suzuki N.	Trends in fertility preservation treatments in Japan until 2023: analysis of the Japan Oncofertility Registry	International Journal of Clinical Oncology	30(4)	684-695	2025

Kagawa K, Yoshikawa Y, Koizumi T, Suzuki N	Psychological Aspects of and Support for Survivors Attempting to Conceive During or After Cancer Treatments: A Mixed-Methods Systematic Review.	J Adolesc Young Adult Oncol	14(2)	129-136	2025
鈴木直	「小児・AYA世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン2024年12月改訂版」の解説	医学のあゆみ	293(4)	280-283	2025
岩端秀之, 鈴木直	がんにおける妊孕性温存療法	がん診療2025	154(1)	93-95	2025
Anizah A, Suzuki N, Lee Y, Alias H, Nur Ghani A, Faizal A, Zainuddin A	A scoping review on adaptations incorporated into decision aids for children and adolescents(C&A) cohorts.	Translational Pediatrics	14(9)	2341-2362	2025
高江正道, 鈴木直	妊孕性温存	臨床婦人科産科	80(1)	117-123	2026
Kikuno K, Asada R, Ishihara T, Bomoto Y, Murase S, Ueda Y, Shiga T, Hayasaki Y, Furui T, Matsuzaki S, Takemura M, Matsunami K, Kubo M, Ito N, Isobe M, Morishige K	Evaluating the Efficacy and Safety of 48-week Low-dose Dienogest Administration in Patients with Dysmenorrhea Caused by Endometriosis: A Protocol for a Randomized, Open-label, Parallel-group Trial	JMIR Res Protocols	14	e66246	2025
Asano K, Unno H, Kubota S, Matsuzaki S, Sumikura T, Iwamiya T, Shimazu K, Fushimi H, Takemura M, Morishige K	Enhancing Preoperative Diagnostic Accuracy in Endometrial Hyperplasia: A Comparison of Biopsy Methods	Cureus	17(4)	e81880	2025

Kikuno K, Asada R, Ishihara T, Morishige K, Chikazawa K, Furui T, Isobe M	Efficacy and Safety of 48-Week Low-Dose Dienogest Treatment in Patients with Endometriosis-Associated Dysmenorrhea: A Randomized, Open-Label, Parallel-Group Trial	Adv Ther	42	6248-6260	2025
Ando H, Shen J, Morishige K, Watanabe H	Factors Associated with Human Papillomavirus Vaccination Intention Among Young Men in Japan: A Cross-Sectional Study	J Comm Health	Online ahead of print		2026
Ito F, Kubota S, Yagi T, Akedo M, Tsuji Y, Takemura M, Morishige K	Feasibility and Safety of Intraoperative Oocyte Retrieval in Patients With Ovarian Tumor: Results From the Japan Oncofertility Registry	Reprod Med Biol	25(1)	e70043	2026
久保田哲、森重健一郎	小児・AYA世代の女性がん患者における妊孕性温存の現状～われわれが進めているがん治療前後の卵巣機能評価に関する臨床研究～	ペリネイタルケア	44（9）	96–97	2025
Yuko Shimoji, Keiko Mekaru, Akiko Ikemura, Natsuki Tamashiro, Shuko Chinen, Rie Nakamura, Chiaki Heshiki, Wataru Kudaka, Masayuki Sekine	Rhabdomyosarcoma Requiring Ovarian Transposition Release for Recurrent Severe Ovulation Pain Following Laparoscopic Ovarian Transposition: A Case Report	Reproductive Medicine and Biology	第24巻第1号	e12665	2025

Sakaguchi N, Kusamoto A, Harada M, Shashni B, Komura A, Teshima A, Tanaka T, Koike H, Xu Z, Kawahara Y, Tsuchida C, Kunitomi C, Takahashi N, Urata Y, Wada-Hiraike O, Hirota Y, Nagasaki Y, Osuga Y.	Butyric acid-based self-assembling nanoparticles: a potential strategy to prevent development of polycystic ovary syndrome.	Mol Hum Reprod.	32(1)	gaag013	2026
Kusamoto A, Harada M, Kawahara T, Koike H, Kunitomi C, Fukui Y, Sanada Y, Takahashi N, Matsuo M, Makabe T, Urata Y, Izumi G, Ooi N, Hiraike O, Osuga Y, Hirota Y.	Effect of assisted hatching on pregnancy outcomes following 1,678,872 single embryo transfers based on the Japan Assisted Reproductive Technology Registry.	Sci Rep	15(1)	40508	2025
Koike H, Harada M, Yoshida K, Noda K, Tsuchida C, Fujiwara T, Kusamoto A, Xu Z, Tanaka T, Sakaguchi N, Kunitomi C, Takahashi N, Urata Y, Sone K, Wada-Hiraike O, Hirota Y, Osuga Y.	Assessment and prediction models for the quantitative and qualitative reserve of the ovary using machine learning.	J Ovarian Res.	18(1)	153	2025
Kawai T, Harada M, Urata Y, Sanada Y, Kaneda Y, Takai Y, Osuga Y	Trends in fertility preservation treatments in Japan until 2023: analysis of the Japan Oncofertility Registry	Int J Clin Oncol	30	684-695	2025
Yuka Yasuda, Akiyoshi Osaka, Keita Izumi, Toshiyuki Iwahata, Akinori Nakayama, Kazunori Kubota & Kazutaka Saito	Usefulness of apparent diffusion coefficient values and magnetic resonance imaging histogram analysis for identifying histological types of preoperative testicular tumors	BMC Urology.	25(1)	140	2025

脇 政順, 市川 智彦, 上村 慶一郎, 柴田 裕貴, 小山 淳太朗, 山崎 一恭, 田中 隆造, 庄 武彦, 竹島 徹平, 湯村 寧, 谷口 久哲, 根来 宏光, 山下 慎一, 大坂 晃由, 杉江 美穂, 岩端 威之, 古城 公佑, 西山 博之	男性がん患者における妊孕性温存の現状と課題の地域比較	日本がん・生殖医療学会誌	9巻1号	100	2026
中山 哲成, 宋 成浩, 原 祐介, 岩端 威之, 齋藤 一隆	Lich-Gregoir法後,尿管膀胱移行部通過障害を来した1例	日本小児泌尿器科学会雑誌	34巻2号	320	2025
鍋田 基生, 細川 忠宏, 伊木 朱有美, 岩端 威之, 田中 貴士, 野手 健造, 長谷川 麻理, 坂井 和貴, 岡田 弘	男性不妊外来患者と一般不妊外来の男性パートナーの精子DFIの比較	日本IVF学会誌	28巻2号	86	2025
岩端 威之, 大坂 晃由, 長谷川 金太朗, 杉江 美穂, 泉 敬太, 正木 希世, 竹川 悠起子, 稲垣 里咲, 大久保 美紀, 池永 晃大, 中山 哲成, 小泉 智恵, 岡田 弘, 杉本 公平, 齋藤 一隆	横紋筋肉腫に対する多診療連携　当院における15歳以下男児の妊孕性温存についての報告(英語)	日本癌治療学会学術集会抄録集63回		OSY15-6	2025
辻岡 博貴, 瀬戸口 誠, 原 祐介, 池添 慧梨香, 韮塚 あす実, 長谷川 金太朗, 杉江 美穂, 大坂 晃由, 泉 敬太, 岩端 威之, 中山 哲成, 齋藤 一隆	ロボット支援下前立腺全摘術におけるhinotoriとda Vinci Xiの周術期成績の比較　傾向スコアマッチング法による検討	泌尿器外科	38巻臨増	806	2025
岡田 弘, 辻岡 博貴, 長谷川 金太郎, 杉江 美穂, 大坂 晃由, 岩端 威之, 齋藤 一隆, 鍋田 基生	Grade1精索静脈瘤は手術の対象か?	泌尿器外科	38巻臨増	775	2025
岩端 威之, 大坂 晃由, 岡田 弘	【どうなの? どうするの? 男性不妊症診療の素朴な疑問】造精機能障害に対してサプリメントは本当に効果があるの?	臨床泌尿器科	79巻12号	1074-1077	2025

杉江 美穂, 岩端 威之, 日比 初紀	【一刀両断! 良性疾患の手術適応-妊孕性と症状の患者ニーズに応える】男性不妊　精索静脈瘤	臨床婦人科産科	79巻10号	952-957	2025
岩端 威之	男性不妊診療とsperm quality　精子DNA断片化指数からみる不妊治療戦略	日本泌尿器科学会総会112回		SY28-2	2025
杉本 公平, 加藤 弘輔, 正木 希世, 大久保 美紀, 大坂 晃由, 竹川 悠起子, 岩端 威之, 小泉 智恵, 岡田 弘, 高倉 聡	里親・養子縁組制度を考える「子どもを迎えたい患者を診る医療者と子どもを預けたい患者を診る医療者の協働」　里親・養子縁組制度を考える「がん・生殖医療に携わる医療者の立場から」	日本周産期・新生児医学会雑誌	61巻Suppl. 1	120	2025
長谷川 金太朗, 大坂 晃由, 杉江 美穂, 丸茂 雄太, 池永 晃大, 正木 希世, 大久保 美紀, 竹川 悠紀子, 岩端 威之, 小泉 智恵, 岡田 弘, 齋藤 一隆, 杉本 公平	新規精液輸送容器TPS-2の有用性について	日本生殖医学会雑誌	70巻3号	289	2025
杉本 公平, 加藤 弘輔, 池永 晃大, 丸茂 雄太, 杉江 美穂, 正木 希世, 大久保 美紀, 大坂 晃由, 竹川 悠起子, 岩端 威之, 小泉 智恵, 岡田 弘	新しい家族のカタチ-里親制度・特別養子縁組制度の普及にむけて〜がん・生殖医療から周産期医療へ〜　日本がん・生殖医療学会の取り組み　がん・生殖医療と里親・養子縁組制度	日本周産期・新生児医学会雑誌	60巻4号	576-578	2025
池添 慧梨香, 中山 哲成, 原 祐介, 辻岡 博貴, 韮塚 あす実, 長谷川 金太朗, 大坂 晃由, 杉江 美穂, 泉 敬太, 岩端 威之, 瀬戸口 誠, 徳本 直彦, 宋 成浩, 齋藤 一隆	放射線療法およびホルモン療法後の局所再発去勢抵抗性前立腺癌に対し,救済ロボット支援前立腺全摘除術が有用であった1例	泌尿器外科	38巻4号	352	2025
片桐 遼人, 中山 哲成, 原 祐介, 池添 慧梨香, 辻岡 博貴, 韮塚 あす実, 長谷川 金太朗, 大坂 晃由, 杉江 美穂, 泉 敬太, 岩端 威之, 瀬戸口 誠, 徳本 直彦, 宋 成浩, 齋藤 一隆	OK-432による胸膜癒着術後,病勢進行が抑えられた転移性腎細胞癌の1例	泌尿器外科	38巻4号	349	2025

辻岡 博貴, 瀬戸口 誠, 原 祐介, 池添 慧梨香, 韮塚 あす実, 長谷川 金太朗, 杉江 美穂, 大坂 晃由, 泉 敬太, 岩端 威之, 中山 哲成, 徳本 直彦, 宋 成浩, 齋藤 一隆	ロボット支援下前立腺全摘術におけるhinotoriとda Vinci Xiの周術期成績の比較　傾向スコアマッチング法による検討	泌尿器外科	38巻4号	348	2025
原 祐介, 中山 哲成, 辻岡 博貴, 池添 慧梨香, 井上 稔, 韮塚 あす実, 長谷川 金太朗, 安田 友佳, 大坂 晃由, 杉江 美穂, 泉 敬太, 岩端 威之, 瀬戸口 誠, 徳本 直彦, 宋 成浩, 齋藤 一隆	術前ペンブロリズマブ投与後にpathological CRを得たMSI-high重複癌の一例	泌尿器外科	38巻4号	346	2025
福島 麻衣, 栗原 恵, 小林 花音, 尾池 綾子, 松井 啓介, 田中 貴士, 小泉 智恵, 大久保 美紀, 池永 晃大, 竹川 悠起子, 正木 希世, 長谷川 金太郎, 杉江 美穂, 大坂 晃由, 岩端 威之, 岡田 弘, 杉本 公平	精巣内精子採取術(TESE)における患者背景とART成績から見た適正凍結本数の検討	日本生殖医学会雑誌	70巻1-2号	129	2025
稲垣 里咲, 栗原 恵, 岩端 威之, 大坂 晃由, 長谷川 金太郎, 正木 希世, 竹川 悠起子, 大久保 美紀, 小泉 智恵, 福島 麻衣, 田中 貴士, 石澤 亜季, 加藤 弘輔, 岡田 弘, 杉本 公平	当院における精巣内精子採取術症例の遺伝学的背景と生殖補助医療の転帰	日本生殖医学会雑誌	70巻1-2号	118	2025
岩端 威之	日本生殖医学会SIG「男性不妊」:次世代の男性不妊診療を担う生殖医療専門医の育成　不妊患者のために生殖医療医(泌尿器科)の仲間の輪を広げる　獨協医科大学埼玉医療センター国際リプロダクションセンターでの不妊治療研修	日本生殖医学会雑誌	70巻1-2号	94	2025
岡田 弘, 田中 貴士,岩端 威之	特集 パッとわかる！　すぐ使える！　産婦人科検査マニュアル	産科と婦人科	93巻13号	339-343	2026